

第30回

第30回日本癌病態治療研究会を 開催するにあたって

第30回日本癌病態治療研究会当番世話人

福島県立医科大学 地域包括的癌診療研究講座・消化管外科学講座 教授

柴田 昌彦



この度、歴史ある日本癌病態治療研究会の第30回研究会の当番世話人を仰せつかりました。開催に向け身の引き締まる緊張を感じています。貴重な機会を与えていただきました松原理事長をはじめ会員の先生には心より感謝いたします。

3月11日には東日本大震災から10年が経過しました。また昨年発生した新型コロナウイルス感染症の蔓延からすでに1年以上を経過しております。またその他にも世界中で命を脅かす大規模災害が毎年のように起きるようになってきました。これらすべてが人類の存続への挑戦ととれる大きな意味があるように思えます。

特にCOVID-19のパンデミックにより、われわれのこれまでの学会・研究会の活動にも大き

な変化が生まれました。本研究会でも第29回研究会は誌上開催という形になりました。プログラムを拝見すると、現在の癌研究の最新情報を盛り込んだ非常に充実した内容です。実際に発表をお聞きすることができずに誠に残念でした。多大な労力を費やしてご準備された調当番世話人をはじめ御教室のご尽力に心より敬意を表します。

第30回研究会に関しましては、2021年秋以降への延期も考慮されましたが、研究会において直接議論を要する喫緊の検討事項が存在すること、新体制となった研究会の活性化を促す目的で、予定通り本年6月11日に開催する運びとなりました。しかしながら第29回研究会の開催から5カ月後であること、開催を予定する神奈川

県では3月に緊急事態宣言が延長され、その後第4波の流行を迎えていることなどを考慮し、ポスターセッションや一般演題を中止し、直前まで企画していたCART療法のシンポジウムも中止いたしweb配信で開催することといたしました。この決定に至るまでには松原理事長をはじめ大変多くの先生方のご意見をお聞きした上、このような苦渋の決断をさせていただくことになりました。そこで、今回の研究会ではテーマを「珠玉の癌研究に学ぶ!」とし、この機会を素晴らしい研究の成果を学ぶ機会とし、これからの皆様の研究の一助となるよう願っております。内容は教育講演・特別講演・ランチョンセミナーのみとさせていただきました。教育講演として、長年にわたり本研究会の副理事長を務められ、数年前に東京大学から東京理科大学にご異動された松島綱治先生には現在進行中の臨床試験も関連する癌微小環境の制御による癌治療の効果について、また癌研究会の山口研成先生には、新しい時代を迎えた胃癌化学療法最新の知見についてご講演いただきます。特別講演としては大阪大学の高倉伸幸先生に、現在多くの癌種で広く使われているVEGF阻害薬に関わる基礎的な研究から効果と有害事象などについてご講演いただきます。また山口大

学の裕 彰一先生にはこれまでの癌免疫療法の臨床試験の豊富なご経験より見えてくるこれからの癌免疫療法についてご講演いただきます。京都大学の河本 宏先生にはiPS細胞を用いた免疫療法の現況についてご講演いただく予定です。ランチョンセミナーでは愛知県がんセンターの室 圭先生に大腸癌化学療法、特に抗EGFR抗体薬の基礎と臨床についてご講演いただきます。

学会・研究会を取り巻く新型コロナウイルス感染症の蔓延により諸般の状況が大きく変化する中、本研究会もその開催形式などにおいて変容が要求されると予想されます。今後どのような形に研究会の開催形式が変化するかわかりませんが、今回の研究会の開催を本研究会の将来的な運営方針を考える機会としてもお考えいただければ幸いです。

このような開催形式の変更について、当番世話人として大きな責任を感じ、会員の先生方には心より申し訳なく思います。現在開催に向け準備中ですが開催形式の詳細については、今後の状況を見て判断しなければならない点も多く、改めてご案内させていただきたいと思っております。

何卒よろしく願いいたします。